



# 神職と奉仕



会員 奥 国範 (54 期)

## 伊太祁曽神社（和歌山市）

和歌山駅から貴志駅まで、和歌山電鐵貴志川線という単線電車が運行しています。貴志川線は、終着駅である貴志駅の駅長を三毛猫の「たま駅長」が務めていることや、いちご電車・おもちゃ電車・たま電車の三種類のラッピング車両が運行していることで有名な路線であり、鉄道ファンならずともテレビなどで聞きされた会員も少なくないことでしょう。

その貴志川線に揺られること20分弱。和歌山駅と貴志駅のほぼ中間にある伊太祁曽神社にほど近い地に鎮座されているのが、伊太祁曽神社（<http://itakiso-jinja.net>）です。伊太祁曽神社は、素盞鳴尊の息子である五十猛命を主祭神とし、木の神を祀る神社として知られています。文献の初出は「続日本紀」の文武天皇大和2年（西暦702年）とのことです。

私の家系は、代々、伊太祁曽神社に奉職しています。現在も、私の父親が宮司を、兄が禰宜を務めており、父親が第50代目とのことです。私は、男三人兄弟の次男なのですが、子供のころから、父親に「おまえたちの代でお守りすべき時期が来たときには三兄弟の誰もがこの神社をお守りできるように神職の資格だけは持っておくように。」と言い聞かせられてきたこともあり、司法試験合格後に、神職の資格を取得しました。

## 神職階位の授与

神職の資格、すなわち神職の階位は、神社本庁の定める「階位検定及び授与に関する規程」に従い、各都道府県にある神社庁から授与されます。階位には、

最高位から順に、浄階、明階、正階、直階とあります。一般的には、皇學館大學か國學院大學にて所定の課程を修了することで正階を授与されますが、私の場合は、皇學館大學の神職養成講習会（1ヵ月程度）を修了することで直階を授与されました。もっとも伊太祁曽神社は、別表神社と呼ばれる神社の一つですので、同神社の宮司になるためには明階が、禰宜になるためには正階が必要です。私はそこまでの階位を有していませんので、その意味では父親の言いつけはいまだ果たせていないことになりましょうか。

## 神社奉仕

私は、子供のころから、年末年始は必ず伊太祁曽神社で奉仕させていただいています。お札の授与など神職でなくともできる奉仕はたくさんあります。そして、私は、神職階位を授与された後も、神職としてではなく、これまで同様の奉仕をさせていただいています。というのも、人さまのご祈祷などは畏れ多くて、私には荷が重すぎるのです。

神社には、地元の方はもちろん、全国各地から実に多くの方が奉仕に訪れて下さいます。神社での奉仕は、清々しい気持ちをもらえるばかりか、多くの人との触れ合いを通じて心を豊かにしてくれるように感じます。

今年も年の瀬が近づいてきました。この年末年始も妻や二人の息子とともにご奉仕させていただく予定です。年末年始に関西方面に帰省・旅行をされる方は、ぜひとも伊太祁曽神社にお立ち寄り下さいませ。